堀米ゆず子 &児玉 桃 デュオリサイタル

堀米ゆず子（ヴァイオリン）
児玉 桃 （ピアノ）

- **曲目** **バルトーク：狂詩曲第一番**
  ドビュッシー：ヴァイオリンソナタ
  野平一郎：新作曲
  モーツアルト：ヴァイオリンソナタ 変ロ長調 K.378
  モーツアルト：ヴァイオリンソナタ イ長調 K.526
  （予定）
- **要約プロフィール**
  ヨーロッパを拠点に国際的に活躍中の名手。
  4 年にわたってモーツアルト シリーズで共演してきた二人の息のあった演奏が楽しみです。
- **日時** **２００８年9月 15 日（月・祝）**
  開演：15：00 （開場：14：30）
- **会場** **ラブリーホール 小ホール**
  （河内長野市立文化会館）
- **料金** **〈一般〉前売 3,000 円 当日 3,500 円**
  〈割引：学生、65 歳以上、障害者の方〉2,500 円
- **チケットの申し込み・お問合せ先**
  音の語らい
  tel/fax.0721-52-7123
  〒586-0027 河内長野市千代田台町 15-14（渡辺）
  E-mail partite_watanabe@goo.jp
  URL http://www.partita-watanabe.com

ラブリーホール
tel. 0721-56-6100
〒586-0016 河内長野市西代町 12-46
URL http://www.lovelyhall.com

- **主催** **音の語らい〈わたなべ まさなお＆のりこ〉**
- **共催** **ラブリーホール**

堀米　ゆず子　(ヴァイオリン)

YUZUKO　HORIGOME，Violin

4歳よりピアノを始め、5歳よりヴァイオリンを久保田良作氏のもとで始める。

1975 年より江藤俊哉氏に師事。1980 年桐朋学園大学音楽科を卒業。

1980 年、ベルギー・ブリュッセルにおけるエリーザベト王妃国際音楽コンクールで、日本人として初めて優勝。その結果、一躍注目を集めヨーロッパを中心に世界各地からオーケストラとの共演、リサイタルなどの招待を受け、はやばやと一流演奏家の仲間入りを果たした。

共演した主なオーケストラには、ベルリン・フィル、ロンドン響、ウィーン響、ミラノ・スカラ・フィル、アムステルダム・コンセルトヘボウ管、フィラデルフィア管、ロサンジェルス・フィル、モントリオール響、シカゴ響、ニューヨーク・フィル、ボストン響、日本の各オーケストラなどがある。

ソリストとしての活躍に加え、室内楽にも積極的に取り組み、アメリカのマールボロ音楽祭やクレーメルの主宰する"ロッケンハウス音楽祭"にしばしば参加。さらに 1990 年からは、カザルスホールのレジデント・クァルテットである"カザルスホール・クァルテット"のオリジナル・メンバーとしても活躍、6回の日本ツアーを行って高い評価を得た。最近ではヨーロッパの音楽家仲間と「アンサンブル・コンソナンス（共鳴）」を結成、ヨーロッパ各地の音楽祭に招かれている。

1996 年には、サントリーホール 10 周年を記念して作曲された湯浅譲二のヴァイオリン協奏曲「イン・メモリー・オブ武満徹」を世界初演、ＣＤとしても発売されその後もしばしば演奏している。

最近のハイライトとしては、マルタ・アルゲリッチとの世界各地での共演（イタリア、日本、アルゼンチン）、アシュケナージ指揮チェコ・フィルとの共演、ジェームス・ディロンのヴァイオリン協奏曲日本初演、ヤーノシュ・シュタルケルとの共演、ルクセンブルク公主催のチャリティ・コンサートへの出演、サンクトペテルブルグでのサンクトペテルブルグ響とのモーツァルト、2003 年～2006 年の４年に亘りに日本とヨーロッパで行ったピアニスト児玉桃とのモーツァルトのヴァイオリンソナタ選集などがある。

2006 年から 2010 年まで 5 年にわたり、毎回現代日本人作曲家の新作を含むヴァイオリンの魅力を存分に引き出したプログラムで綴る「堀米ゆず子ヴァイオリンﾜｰｸｽ“音楽の旅－叙情を求めて”」、 2007 年からは 3 年にわたりピアノのアブデル・ラーマン・エル＝バシャとベートーヴェンのヴァイオリンソナタ全曲演奏会とシリーズ企画にも積極的に取り組んでおり、好評を博している。

本年春には、ラロのヴァイオリン協奏曲全 3 曲他のレコーディング、6 月にはルガーノ音楽祭（スイス）、9 月にはフランダース音楽祭（ベルギー）への再演が決まっている。

現在、ブリュッセル王立音楽院客員教授。

使用楽器は、ヨゼフ・グァルネリ・デル・ジェス（1741 年製）。

公式ホームページ：http://www.palp.com/yuzukohorigome/

（2008 年 1 月現在）

(株)梶本音楽事務所　担当：広瀬公美子/大貫篤

〒104-0061 東京都中央区銀座 8-6-2　河北ビル 3F

TEL:03-3574-0969　FAX:03-3574-0980

児玉　桃 (ピアノ)

Momo　Kodama, piano

13歳の時、最年少最優秀でパリ国立音楽院に入学。故タチアナ・ニコライエワ、アンドラーシュ・シフ、マレイ・ペライア、ヴェラ・ゴルノスタエワの各氏に師事し、16 歳でピアノと室内楽のクラスを審査員全員一致のプレミエ・プリで卒業。在学中、セニガリア、エピナール両国際コンクールで優勝。1991 年、ミュンヘン国際コンクールに最年少の 19 歳で最高位に輝く。

17 歳でシャトレ座の「若手と大家」シリーズに抜擢され、ヴァイオリンの大家、ジャン・ジャック・カントロフとの共演でパリ・デビューを行う。以後、ケント・ナガノ指揮ベルリン・フィル、小澤征爾指揮ボストン交響楽団をはじめ、バイエルン放送交響楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、ロイヤル・リバプール交響楽団、ハレ管弦楽団など、世界のトップオーケストラと共演を重ねている。

2002年～03年シーズンは、マカル指揮モントリオール交響楽団、ベルティーニ指揮バルセロナ交響楽団との共演、デュトワ指揮NHK交響楽団とのアジアツアー、ベルリン芸術週間への参加、インバル指揮ベルリン交響楽団でシーズン・オープニングコンサートとスペイン・ツアーなどが挙げられる。

リサイタルでは、チューリヒ・トーンハレをはじめ、1999 年にはロンドンのウィグモアホールで

デビューを飾るなど、ヨーロッパ各地で行い、ティボリ、エネスク、モーストリー・モーツァルト、ハロゲートなど、多くの国際音楽祭から招かれている。2002年のスイス・ルツェルン音楽祭では、ヴィードマンの新作を世界初演した。

国内では、2002年、トッパンホールで行った、メシアン「みどり子イエスに捧ぐ20のまなざし」全曲リサイタルが朝日新聞紙上で絶賛され、翌年年始の特集記事「2003年これがイチ押し!!」アーティストに選ばれるなど大きな話題を集めた。室内楽においては、マールボロ、ダボス、カシス音楽祭への参加、ウィーン八重奏団との日本ツアーで活躍。また、現代の新進作曲家、ペルト、ヴィードマンから厚い信頼を得ており、新作初演などを手掛けている。

2004年は5月に名古屋フィルハーモニー交響楽団とのヨーロッパ・ツアーでメシアンの「トゥーランガリラ」を演奏し、各地で高い評価を得、続いてゲルギエフ指揮東京都響と共演、イタリアでペルト作曲の新作協奏曲をイタリア国営放送（RAI）交響楽団と、またエストニア、ラトビア、ベルグラードフィルとの共演等で活躍。また8月のサイトウキネンオーケストラとの共演も話題を呼んだ。11 月にはノリントン指揮シュトゥットガルト放送交響楽団とのドイツ及び日本ツアーで大成功を収めた。2005 年は、ラ・フォル・ジュルネ（ナント、リスボン及び東京）、シュレスヴィッヒ・ホルシュタイン、南仏のラ・ロック・ダンテロンの各音楽祭に参加。ラ・ロック・ダンテロンでのリサイタルは「いままでに聴いたことのない、

まさにショパンの芸術の神髄とも言えるほど熱狂的な演奏を披露・・・」（ル・モンド紙）と絶賛された。

2006 年 4 月には北ドイツ放送交響楽団の定期演奏会に出演し、細川俊夫の新作（世界初演）とモーツァルトの協奏曲を一夜に演奏する企画と演奏が高く評価された。同年 12 月には、小澤征爾指揮／水戸室内管弦楽団定期演奏会でも同企画での演奏を果たし絶賛された。また、同年8月には、メシアン未発表の作品「ヴァイオリンとピアノのための幻想曲」の世界初演をフランスで果たした。

2008年は、6月に小澤指揮／水戸室内管とのヨーロッパ・ツアーにソリストとして参加し、細川作品を演奏するほか、メシアン生誕100年にあたり「メシアン・プロジェクト」と題してピアノ作品を中心とした5回のシリーズ公演予定している。
http://kodama2008.com/

CD はオクタビアレコードより 2003 年 2 月に、デビュー盤『ドビュッシー：impressions』を、次いで 12 月には「ショパン・ピアノ作品集」をリリース。2005年12月には「メシアン：幼子イエスに注ぐ20のまなざし」がリリースされ、好評を得ている。1994 年度アリオン奨励賞。1997 年第 7 回出光音楽賞。1999 年第 9 回テレンス・ジャッド賞（英国）受賞。2007年メシアン国際コンクール審査員。パリ在住。

（2007年12月現在）